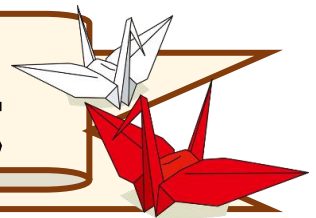


令和5年度 府中町原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式



原爆投下から78年を迎えた令和5年8月6日、原爆慰霊碑のある役場河川敷で、府中町原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が行われ、町内小中学校の児童会・生徒会の代表が参加しました。式中で、生徒会代表が、千羽鶴の奉獻と平和へのメッセージを述べました。参加された方々に、平和な未来のために「自分の命、身近な命を大切にし、日々の当たり前に感謝する」ことの大切さを力強く語りました。

平和へのメッセージ

私は、一冊の本を読み大きな衝撃を受けました。「ヒロシマ 消えたかぞく」という本です。これは、ある家族の生きた記録で、実際の写真とともに家族の生活が描かれています。

この本には、笑顔いっぱい毎日楽しそうに暮らす家族がいました。海水浴をしたり、犬や猫と戯れたり、親戚と神社にお参りに行ったり。戦時下とは思えないほど幸せそうな写真からは、今の時代の私達と同じような日常が感じられました。子どもたちは明日を楽しみにして、毎日眠りについていました。そんな中、なんの前触れもなく落とされた一発の原子爆弾。

78年前の今日午前8時15分、眩しい光と激しい音に広島が包まれました。広島の美しい街並みは一瞬のうちに失われました。多くの命が奪われ、大切な仲間、当たり前の日常は一瞬で消え去っていきました。原子爆弾が落とされたとき、人々は何をしていたのでしょうか。

当たり前が続くと思っていた日常が突然奪われてしまうこと。私達と変わらない、一日一日を楽しく生きていた家族がたくさん原爆によって壊されたこと。そんな想像しがたい出来事が実際にあったのだと突きつけられました。

二度と戦争をしてはいけません。そんな一人一人の思いがあるにも関わらず、今でも世界中様々な場所で戦争や紛争が起こっています。去年の2月に始まったロシアのウクライナ侵攻。いまだ続いているこの戦争によっても多くの命が奪われています。今、この瞬間も苦しんでいる人、日常を奪われた人もいることを忘れてはいけません。

その思いのもと、主要7か国の代表が今年の5月、広島に集いました。G7サミットを通して改めて考えました。

今、私達ができること。それは、自分の命、身近な命を大切にし、日々の当たり前に感謝することです。一人一人の行動で確実に未来は変わる。

私達は、平和な未来のために歩み続けます。

府中中学校 河野 苺々
府中緑ヶ丘中学校 西 達矢



府中中



府中中



中央小



東小



北小



自分の命、身近な命を大切にし、日々の当たり前に感謝することが平和に繋がることを府中中学校 河野さん、府中緑ヶ丘中学校 西さんが思いを込めて語りました。



府中中



府中緑ヶ丘中

町内小中学校の児童生徒が平和への祈りを込めて作成した千羽鶴を府中中学校 荒平さん、伊藤さん、府中緑ヶ丘中学校 西さんが奉獻しました。